需給動向

海外の畜産物の需給動向

牛　肉

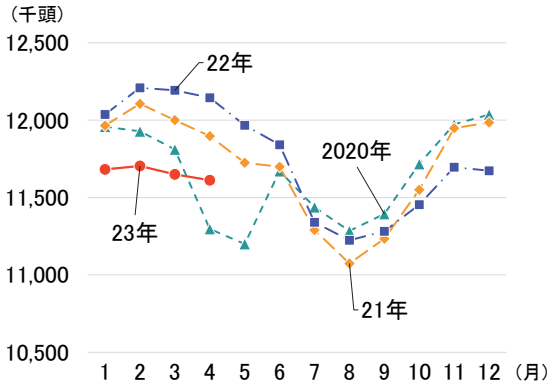
米　国

肥育牛出荷頭数の減少により、肥育牛価格は依然として堅調を維持

フィードロット飼養頭数、前年同月比4.4％減

米国農務省全国農業統計局（USDA/NASS）によると、2023年３月のフィードロット導入頭数は199万2000頭（前年同月比0.6％減）、出荷頭数は197万7000頭（同1.2％減）となり、同年４月１日時点のフィードロット飼養頭数は同4.4％減の1161万2000頭とやや減少した（図１）。導入頭数は事前予測よりも多く、減少幅が小さくなったことについて現地報道では、メキシコからの生体牛の輸入頭数が増加していることを一因としている。

図１　フィードロット飼養頭数の推移



資料：USDA「Cattle on Feed」
注１：1000頭以上規模のフィードロットが対象。
注２：各月１日時点。

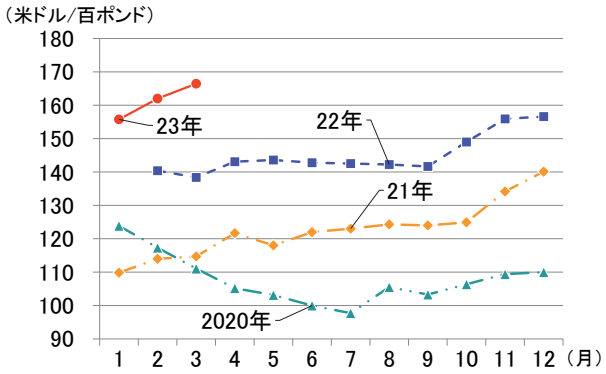
肥育牛価格は高値が継続

米国農務省農業マーケティング局（USDA/AMS）によると、2023年３月の肥育牛価格は100ポンド当たり166.45米ドル（１キログラム当たり496円：１米ドル＝135.13円(注)、前年同期比20.3％高）となり、前述した肥育牛出荷頭数の減少を背景に高値圏で上昇している（図２）。

４月に入っても肥育牛価格の上昇は続いており、USDAは処理施設に余力があるものの供給が比較的厳しい北部の需要が高いことを要因としている。

（注）三菱UFJリサーチ＆コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2023年４月末TTS相場。

図２　肥育牛価格の推移



資料：USDA「Livestock ＆ Meat Domestic Data」
注１：ネブラスカの相対取引価格、チョイス級、去勢。
注２：2022年１月の値は、N/A値。

23年２月の牛肉輸出量は前年同月比減も回復の兆し

米国農務省経済調査局（USDA/ERS）によると、2023年２月の牛肉輸出量は11万3745トン（前年同月比1.4％減）と、好調であった前年同月をわずかに下回ったものの前月から3.4％増加した（表）。

23年１～２月の累計輸出量を見ると、１月が全体的に低調であったため、前年同期比9.0％減となった。主要輸出先では、日本およびメキシコ向けは増加したが、輸出先第２位の韓国向けは前年１月の輸出量急増の反動から、同22.1％減となった。また、第３位の中国向けは同14.2％減となっている。USDAは、中国は年間を通じて米国産牛肉の輸出先として重要な市場であることに変わりないが、今後オセアニアの牛肉生産量が増加することで、同国のシェア（市場占有率）の獲得競争に直面する可能性を指摘している。

メキシコ向けについては、１月に引き続き好調を維持し同17.5％増となった。ただし、同国は23年からブラジル産牛肉の一部を輸入解禁したことから、米国食肉輸出入連合会（USMEF）は、今後ブラジル産牛肉との競合を見込んでいる。

表　輸出先別牛肉輸出量の推移

（単位：トン）

	2022年２月	23年２月	前年同月比（増減率）	シェア	23年（１～２月）	前年同期比（増減率）
日本	26,760	28,629	7.0%	25.2%	57,136	6.9%
韓国	23,937	24,164	0.9%	21.2%	47,909	▲22.1%
中国	19,569	19,235	▲1.7%	16.9%	35,594	▲14.2%
メキシコ	10,416	11,008	5.7%	9.7%	23,043	17.5%
カナダ	9,538	7,899	▲17.2%	6.9%	16,919	▲8.7%
台湾	7,423	6,245	▲15.9%	5.5%	12,631	▲26.1%
香港	2,708	3,040	12.3%	2.7%	5,040	0.2%
フィリピン	1,753	1,592	▲9.2%	1.4%	2,881	17.1%
その他	13,301	11,931	▲10.3%	10.5%	22,642	▲15.3%
合計	115,406	113,745	▲1.4%	100.0%	223,795	▲9.0%

資料：USDA「Livestock and Meat International Trade Data」
注：枝肉重量ベース。

（調査情報部　上村　照子）

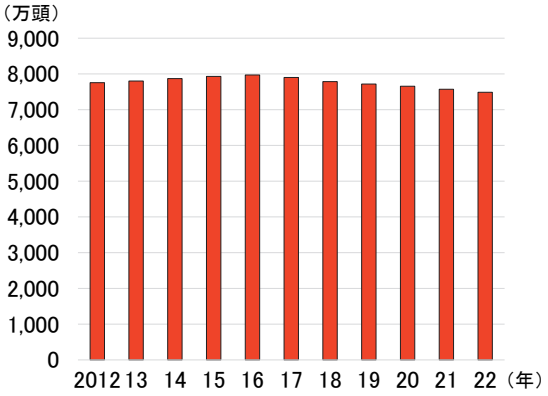
E U

牛飼養頭数、牛肉生産量の減少は23年も続く見込み

牛飼養頭数、牛肉生産量ともに減少

欧州委員会によると、2022年12月時点のEUの牛飼養頭数（EU27カ国）は、7485万5790頭（前年比1.1％減）と６年連続で前年を下回った（図１）。ここ数年の飼料や燃料などの生産コスト上昇の影響を受けて牛飼養頭数は減少基調にあり、欧州委員会はこの傾向が23年も続くと見込んでいる。

図１　牛飼養頭数の推移



資料：欧州委員会「Eurostat」
注１：各年12月時点。
注２：乳用種を含む。

また、22年の牛肉生産量（EU27カ国）は、663万4570トン（前年比2.5％減）となった（表１）。主要生産国では、ドイツの減少幅が最も大きく（同8.4％減）、次いでフランス（同4.4％減）、ポーランド（同2.6％減）と続く。

米国農務省海外農業局（USDA/FAS）によると、高騰する飼料費や燃料費のほか、後継者不足が肉牛生産者の経営に影響しており、さらに環境規制の強化も経営縮小の一因としている。また、熱波や干ばつによりフランスなどにおける飼料生産が影響を受け、飼料価格が上昇したことにより、１頭当たり枝肉重量が減少したことも牛肉生産量減少の一因となった。USDA/FASによると、23年の飼料は平年並みに供給され、価格が下落するため、１頭当たりの枝肉重量の回復が見込まれているが、飼養頭数の減少を補うには至らないことから、同年の牛肉生産量を前年比0.5％の減少と見込んでいる。

表１　主要生産国別牛肉生産量の推移

（単位：千トン）

	2019年	20年	21年	22年	前年比（増減率）
フランス	1,428	1,435	1,424	1,361	▲ 4.4%
ドイツ	1,106	1,090	1,072	982	▲ 8.4%
イタリア	780	732	748	747	▲ 0.1%
スペイン	695	678	718	732	1.9%
アイルランド	620	633	595	621	4.5%
ポーランド	560	559	555	541	▲ 2.6%
オランダ	424	433	430	422	▲ 1.9%
その他	1,294	1,262	1,261	1,229	▲ 2.5%
合計	6,908	6,822	6,802	6,635	▲ 2.5%

資料：欧州委員会「Eurostat」
注：枝肉重量ベース。

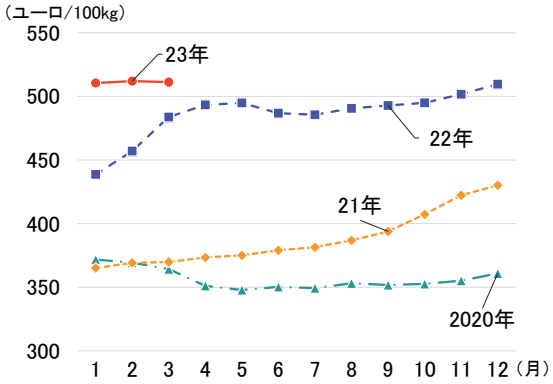
枝肉卸売価格の高止まりで乳牛の淘汰（とうた）が加速

2023年３月の牛枝肉平均卸売価格(注1)は、100キログラム当たり511.25ユーロ（７万6452円：１ユーロ＝149.54円(注2)、前年同月比5.7%高）と引き続き前年同月を上回る高水準で推移している（図２）。

欧州委員会によると、23年に入り乳価は下落し始め、さらに枝肉価格が高止まりしていることから、今後、乳用経産牛の淘汰が進むとしている。しかし、１歳以上２歳未満の雄牛の頭数も減少しているため、同委員会は23年の牛肉生産量の減少を見込んでいる。

（注１）若雄牛（A）、去勢牛（C）および若齢牛（Z）のうち枝肉の格付けが上（R）、枝肉の脂肪の付着度合が平均的（５段階中３）なものの平均価格（A/C/Z-R3）。
（注２）三菱UFJリサーチ＆コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2023年４月末TTS相場。

図２　牛枝肉卸売価格の推移



資料：欧州委員会「Meat Market Observatory - Beef and Veal」
注：（A/C/Z-R3）価格。

牛肉輸出量は減少の一方で輸入量は増加

2022年の冷蔵および冷凍牛肉輸出量は、前年比9.9%減の41万1923トンとかなりの程度減少した（表２）。欧州委員会によると、EU域内の牛肉生産量は減少し、牛肉価格は高止まりすることから、23年の牛肉輸出量はさらに減少すると予測されている。

表２　輸出先別牛肉輸出量の推移

（単位：トン）

品目	輸出先	2021年	22年	前年比（増減率）
冷蔵	英国	150,227	149,042	▲ 0.8%
	ボスニア・ヘルツェゴビナ	32,672	30,641	▲ 6.2%
	スイス	18,940	17,464	▲ 7.8%
	イスラエル	9,435	9,965	5.6%
	ノルウェー	15,825	8,933	▲ 43.6%
	北マケドニア共和国	8,064	6,967	▲ 13.6%
	モンテネグロ	2,482	2,740	10.4%
	その他	13,039	9,895	▲ 24.1%
	合計	250,684	235,647	▲ 6.0%
冷凍	英国	63,382	75,804	19.6%
	フィリピン	23,316	19,197	▲ 17.7%
	日本	12,901	10,826	▲ 16.1%
	カナダ	11,906	9,792	▲ 17.8%
	イスラエル	6,554	6,459	▲ 1.4%
	ガーナ	9,012	5,197	▲ 42.3%
	米国	6,643	4,772	▲ 28.2%
	その他	72,929	44,229	▲ 39.4%
	合計	206,643	176,276	▲ 14.7%
冷蔵・冷凍計		457,327	411,923	▲ 9.9%

資料：「Global Trade Atlas」
注１：製品重量ベース。
注２：冷蔵のHSコードは0201、冷凍のHSコードは0202。

一方、22年の冷蔵および冷凍牛肉輸入量は、前年比27.0％増と大幅に増加した（表３）。USDA/FASは、新型コロナウイルス感染症（COVID－19）によるロックダウンの解除で消費が回復したことにより需要が増加したことが要因としている。欧州委員会は、EU域内の牛肉価格が高いことから、23年はさらに輸入量が増加する可能性があるとしている。

表３　輸入先別牛肉輸入量の推移

（単位：トン）

品目	輸入先	2021年	22年	前年比（増減率）
冷蔵	英国	47,245	89,460	89.4%
	アルゼンチン	37,636	45,635	21.3%
	ウルグアイ	20,970	20,757	▲ 1.0%
	ブラジル	16,371	15,026	▲ 8.2%
	米国	11,428	13,758	20.4%
	豪州	6,609	6,041	▲ 8.6%
	日本	1,065	1,970	85.0%
	その他	5,024	6,709	33.5%
	合計	146,348	199,356	36.2%
冷凍	ブラジル	37,123	40,363	8.7%
	英国	14,243	14,834	4.1%
	ウルグアイ	11,852	8,494	▲ 28.3%
	アルゼンチン	2,581	3,245	25.7%
	ニュージーランド	2,038	2,705	32.7%
	ナミビア	928	2,346	152.8%
	パラグアイ	1,622	2,285	40.9%
	その他	1,242	3,110	150.4%
	合計	71,629	77,382	8.0%
冷蔵・冷凍計		217,977	276,738	27.0%

資料：「Global Trade Atlas」
注１：製品重量ベース。
注２：冷蔵のHSコードは0201、冷凍のHSコードは0202。

（調査情報部　上村　照子）

豪　州

成牛と畜頭数の増加により、牛肉輸出量も大幅に増加

肉牛価格は今後も軟調に推移の見込み

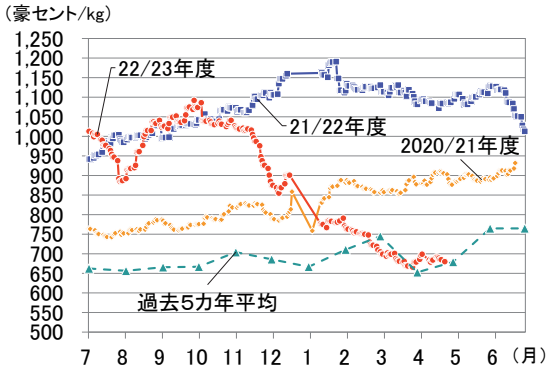
肉牛生体取引価格の指標となる東部地区若齢牛指標（EYCI）価格は、軟調に推移している（図１）。同価格は、2023年３月末から４月上旬にかけ、下落傾向から反転して１キログラム当たり700豪セント（637円：１豪ドル＝90.98円(注)）近くまで上昇したが、４月24日時点では同680豪セント（619円）となった。

現地報道によると、今後は食肉処理施設の労働力不足に伴うと畜頭数の伸び悩みに加え、牛群再構築完了により子牛供給が増加しているため、同価格は引き続き軟調に推移し、

年末までに同640豪セント（582円）程度になる可能性が高いとしている。

（注）三菱UFJリサーチ＆コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2023年４月末TTS相場。

図１　EYCI価格の推移

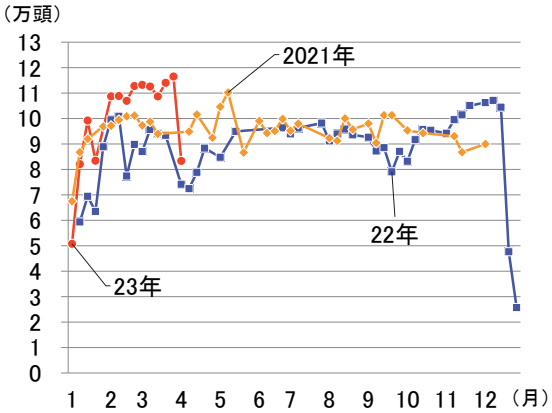


資料：MLA
注１：年度は７月～翌６月。
注２：東部地区若齢牛指標（EYCI）価格は、東部３州（クイーンズランド州、ニューサウスウェールズ州、ビクトリア州）の主要家畜市場における若齢牛の加重平均取引価格で、家畜取引の指標となる価格。肥育牛や経産牛価格とも相関関係にある。

成牛と畜頭数は堅調に増加

例年４月は豪州の祝日が多く、食肉処理施設の稼働日数が制限されるため、成牛と畜頭数が前月から減少する傾向にある。豪州食肉家畜生産者事業団（MLA）によると、牛群再構築の完了により2023年３月まで成牛と畜頭数は増加傾向で推移しており、同月第５週は20年以来の高水準となる11万6499頭（前年同月第４週比24.8%増）であった（図２）。23年４月第１週は８万3341頭と前週比で28.5%減少しているものの、前年同月同週比では12.4%増とかなり大きく増加している。

図２　成牛と畜頭数の推移（週間報告）



資料：MLA
注１：成牛のみ（子牛は含まない）。
注２：年末および３～４月ごろの減少は、祝日などの休暇に伴うと畜場休業によるもの。

牛肉輸出量は主要国向けが軒並み大幅増

豪州農林水産省（DAFF）によると、2023年３月の牛肉輸出量は９万8978トン（前年同月比33.1%増）、同年１～３月の累計でも22万828トン（前年同期比24.6%増）と、いずれも大幅に増加している（表）。

輸出先別では、主要国向けが軒並み増加する中で、日本向けは２万461トン（前年同月比1.9%増）とわずかな増加にとどまった。一方、中国向けは、２月下旬にブラジルでの非定型BSEの発生により、同国からの牛肉輸入が停止されたことから、輸入業者が豪州産などに調達を振り替えたため、１万9958トン（同48.0%増）と大幅に増加している。しかし現地報道によると、中国はブラジルからの牛肉輸入停止措置を短期間で解除したため、中国向けの牛肉輸出量の増加は、単発的なものになる可能性があるとしている。他方で米国向けも、１万7305トン（同55.3%増）と大幅に増加している。MLAによると、同国の干ばつによる牛群淘汰（とうた）から牛肉生産量は依然として高水準であるものの、ピーク時か

らは減少しており、中長期的な生産量の減少を考慮して、輸入業者は豪州などからの牛肉輸入量を増やしているとしている。また、３月の米国向け加工用牛肉価格（90CL（赤身率90％のひき肉））も、前月から約20％上昇したとしている。

表　輸出先別牛肉輸出量の推移

（単位：トン）

	2022年３月	23年３月	前年同月比（増減率）	23年（１～３月）	前年同期比（増減率）
日本	20,083	20,461	1.9%	49,072	5.5%
中国	13,483	19,958	48.0%	43,042	27.4%
韓国	13,187	19,933	51.2%	43,400	31.4%
米国	11,142	17,305	55.3%	37,951	41.0%
東南アジア	8,400	12,140	44.5%	25,893	51.2%
中東	2,641	2,297	▲ 13.0%	6,007	10.9%
EU	398	508	27.7%	1,525	▲ 8.3%
その他	5,014	6,376	27.2%	13,938	9.5%
輸出量合計	74,348	98,978	33.1%	220,828	24.6%

資料：DAFF
注1：船積重量ベース。
注2：東南アジアは、フィリピン、タイ、マレーシア、シンガポール、インドネシアの合計。
注3：中東は、イラン、イラク、シリア、レバノン、ヨルダン、イスラエル、サウジアラビア、クウェート、バーレーン、カタール、オマーン、イエメン、エジプト、パレスチナ自治区、アラブ首長国連邦を構成する七つの首長国のうち四つの首長国（アブダビ、ドバイ、フジャイラ、ラアス・アル＝ハイマ）の合計。

（調査情報部　国際調査グループ）

ブラジル

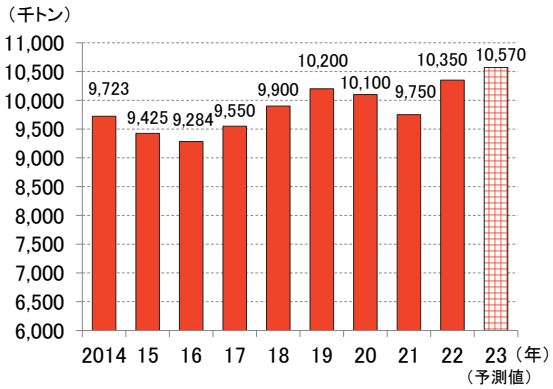
23年の牛肉生産量は２年連続で増加の予測

23年の牛肉生産量、前年比2.1％増の予測

米国農務省海外農業局（USDA/FAS）によると、2023年のブラジルの牛肉生産量は1057万トン（前年比2.1％増）と前年からわずかに増加し、２年連続の増加が予測されている（図１）。これは、海外からの堅調な牛肉需要により、と畜頭数が同2.8％増の4324万頭と予測されるためである。

近年の牛肉生産量を見ると、20～21年

図１　牛肉生産量の推移



資料：USDA
注１：枝肉重量ベース。
注２：2023年は予測値。

はと畜対象となる個体が少なく前年割れで推移したが、22年はと畜頭数の回復に加えて牛肉価格が高水準で推移したことから前年比6.2%増と増加に転じていた。

23年１～３月牛肉輸出量は前年同期を下回る

ブラジル経済省貿易事務局（SECEX）によると、2022年の牛肉輸出量は199万1201トン（前年比27.6%増）と前年を大幅に上回った（表、図２）。これは、海外からの堅調な牛肉需要によるものであり、輸出単価も前年比16.1%高と上昇した。また、21年は９月に国内で非定型BSEに感染した個体が確認され、12月15日までの約３カ月間、中国向け輸出が停止していたが、これが解除されたことも大幅な輸出量増加の要因となった。

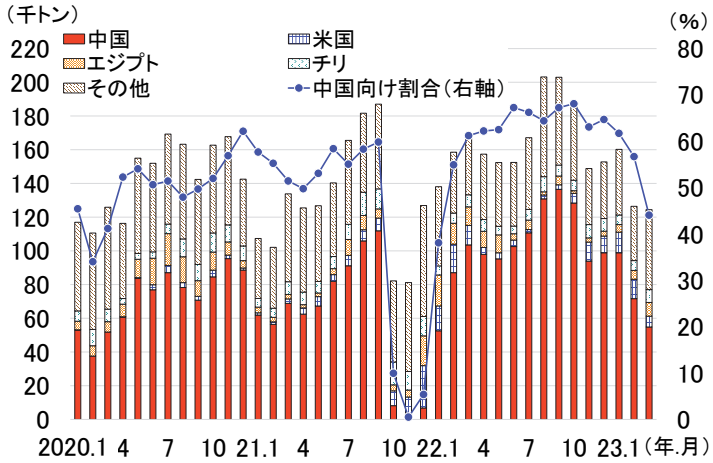
輸出先別に見ると、輸出量全体の６割程度を占める中国向けは123万8001トン（同71.2%増）と、輸出再開後は前年実績を大幅に上回って推移した。これに次ぐ米国向けは８万8713トン（同3.4%増）と前年をやや上回った。同国向けは、22年１～３月に

表　牛肉輸出の推移

区分	2021年			22年			前年比（増減率）		
	輸出量（トン）	輸出額（千米ドル）	単価（米ドル/トン）	輸出量（トン）	輸出額（千米ドル）	単価（米ドル/トン）	輸出量	輸出額	単価
中国	723,170	3,906,641	5,402	1,238,001	7,950,312	6,422	71.2%	103.5%	18.9%
米国	85,800	465,296	5,423	88,713	446,210	5,030	3.4%	▲4.1%	▲7.3%
エジプト	65,096	270,628	4,157	85,363	343,317	4,022	31.1%	26.9%	▲3.3%
チリ	110,198	563,182	5,111	78,608	391,377	4,979	▲28.7%	▲30.5%	▲2.6%
フィリピン	45,894	192,268	4,189	60,501	269,630	4,457	31.8%	40.2%	6.4%
アラブ首長国連邦	47,609	211,504	4,443	56,010	260,045	4,643	17.6%	23.0%	4.5%
イスラエル	33,914	184,158	5,430	38,354	241,971	6,309	13.1%	31.4%	16.2%
ロシア	28,006	116,534	4,161	37,884	161,990	4,276	35.3%	39.0%	2.8%
その他	420,511	2,057,193	4,892	307,767	1,740,176	5,654	▲26.8%	▲15.4%	15.6%
合計	1,560,198	7,967,403	5,107	1,991,201	11,805,027	5,929	27.6%	48.2%	16.1%

資料：SECEX
注１：HSコード0201（冷蔵牛肉）、0202（冷凍牛肉）の合計。
注２：製品重量ベース。

図２　牛肉輸出量および中国向け輸出割合の推移



資料：SECEX
注：中国向け輸出量および割合には香港を含まない。

前年同月を大幅に上回ったが、その後は減速した。また、エジプト向けは８万5363トン（同31.1％増）とハラール牛肉需要の高まりなどを背景に大幅に増加した。

23年１～３月の牛肉輸出量は、41万1048トン（前年同期比11.7％減）と前年同期をかなり大きく下回った。これは、２月に非定型BSEに感染した個体が確認され、２月23日から１カ月間、中国向け輸出が停止したことなどが影響している。ただし、20、21年の同期の水準は上回っている。

23年の肥育牛価格は下落傾向で推移

サンパウロ大学農学部応用経済研究所（CEPEA）によると、2022年の肥育牛価格は、（１）海外からの堅調な需要（２）飼料や肥料などの生産コストの上昇（３）インフレの進行―などを背景に上昇し、同年３月14日には１キログラム当たり23.47レアル（634円：１レアル＝27.02円(注)）の最高値を記録した（図３）。しかし、その後は、不透明な世界経済の状況などを反映して下落傾向で推移し、23年４月24日時点の価格は、前年同期比14.0％安の同18.86レアル（510円）となった。

（注）三菱UFJリサーチ＆コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2023年４月末Selling相場。

図３　肥育牛価格の推移

資料：CEPEA

（調査情報部　井田　俊二）

豚　肉

米　国

豚飼養頭数、３年ぶりに前年を上回る

豚飼養頭数、前年同月比0.2％増

米国農務省全国農業統計局（USDA/NASS）によると、2023年３月１日時点の豚飼養頭数は7286万頭（前年同月比0.2％増）と前年並みになった（表１）。22年は飼料費の高騰やカルフォルニア州法の施行（飼養環境規制の強化）をにらんで生産者の増頭意欲の減退などで豚飼養頭数は減少したが、堅調な豚肉輸出需要などにより、23年前半にかけては増加に転じると予測される。内訳を見ると、繁殖豚頭数が613万頭（同0.5％増）とわずかに増加し、肥育豚頭数が6673万頭（同0.2％増）と前年並みとなった。また、22年12月～23年２月の分娩母豚頭数は291万頭（前年同期比0.3％減）とわずかに減少したものの、産子数（同0.3％増）、１腹当たり産子数（同0.6％増）はわずかに増加した。

表１　豚飼養頭数の推移

（単位：千頭）

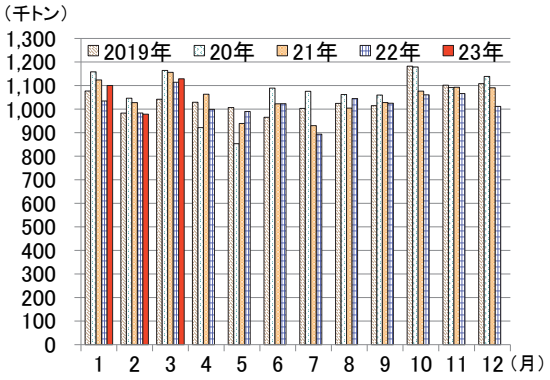
	2020年	21年	22年	23年	前年比（増減率）
総飼養頭数（３月１日時点）	76,179	73,933	72,689	72,860	0.2%
繁殖豚	6,375	6,215	6,098	6,127	0.5%
肥育豚	69,804	67,718	66,591	66,734	0.2%
50ポンド（23キログラム）未満	21,571	20,238	20,105	20,059	▲ 0.2%
50 ～ 119ポンド（23 ～ 53キログラム）	19,353	19,138	19,030	18,975	▲ 0.3%
120 ～ 179ポンド（54 ～ 81キログラム）	15,086	15,375	14,988	14,973	▲ 0.1%
180ポンド（82キログラム）以上	13,793	12,966	12,468	12,727	2.1%
分娩母豚頭数（12 ～２月）	3,182	2,929	2,919	2,910	▲ 0.3%
産子数（12 ～２月）	35,016	32,059	31,947	32,058	0.3%
１腹当たり産子数（12 ～２月）（頭）	11.00	10.94	10.95	11.02	0.6%

資料：USDA「Hogs and Pigs」
注１：計数は、四捨五入のため、合計において一致しない場合がある。
注２：産子数には事故などで死亡した子豚を含まない。

23年３月の豚肉生産量、前年同月比1.3%増

USDAによると、2023年３月の豚肉生産量は、と畜頭数の増加により112万9000トン（前年同月比1.3%増）と前年同月からわずかに増加した（図）。23年第２四半期（７～９月）の豚肉生産量についてUSDAは、生産者の増頭意欲の回復や１頭当たり産子数の増加などから当初予測を上方修正し、301万トン（前年比1.5%増）と前年をわずかに上回ると見込んでいる。

図　豚肉生産量の推移



資料：USDA「Livestock & Meat Domestic Data」
注：枝肉重量ベース。

23年１～２月の豚肉輸出量、中国、ドミニカ共和国向けが大幅増

米国農務省経済調査局（USDA/ERS）によると、2023年２月の豚肉輸出量は22万8700トン（前年同月比3.7%増）とやや増加し、１～２月累計では48万800トン（前年同期比6.4%増）とかなりの程度増加した（表２）。輸出先別に見ると、最大の仕向け先であるメキシコ向けが18万4800トン（同2.1%増）とわずかに増加し、中国向けも需要回復から４万8100トン（同24.0%増）と大幅に増加した。また、ドミニカ共和国向けは、同国でのアフリカ豚熱（ASF）による豚肉生産量の減少や観光需要の回復に伴って２万3800トン（同55.3%増）と大幅に増加した。一方、日本向けは７万9800トン（同1.2%減）とわずかに減少し、韓国向けも３万6500トン（同9.7%減）とかなりの程度減少した。23年の豚肉輸出見通しについてUSDAは、国内生産量が増加する中で、北米、中米地域からの堅調な需要を受けて、

289万4000トン（前年比0.7％増）と前年をわずかに上回ると見込んでいる。

表２　輸出先別豚肉輸出量の推移

（単位：千トン）

	2022年 2月	23年 2月	前年同月比（増減率）	シェア	23年（1～2月）	前年同期比（増減率）
メキシコ	82.0	81.2	▲1.0%	35.5%	184.8	2.1%
日本	44.7	40.2	▲10.1%	17.6%	79.8	▲1.2%
中国・香港	19.0	21.5	12.7%	9.4%	48.1	24.0%
カナダ	17.1	18.7	8.9%	8.2%	39.8	15.1%
韓国	18.4	17.5	▲5.0%	7.6%	36.5	▲9.7%
コロンビア	9.0	9.3	3.4%	4.1%	18.2	7.2%
ドミニカ共和国	7.1	13.6	90.6%	6.0%	23.8	55.3%
その他	23.2	26.8	15.8%	11.7%	49.7	12.8%
合計	220.6	228.7	3.7%	100.0%	480.8	6.4%

資料：USDA「Livestock and Meat International Trade Data」
注：枝肉重量ベース。

（調査情報部　伊藤　瑞基）

カナダ

と畜処理能力の低下を背景に、23年の豚肉生産量は減少の予測

豚総飼養頭数、前年比1.7％減

カナダ統計局（Statistics Canada）によると、2023年１月１日時点の豚飼養頭数は1393万頭（前年比1.7％減）とわずかに減少し、16年以来の低水準となった（表１）。内訳を見ると、繁殖豚が125万頭（同0.8％減）、肥育豚は全重量帯で減少して1268万頭（同1.8％減）となった。米国農務省（USDA）は減少の要因として、飼料費の高騰やカナダ東部（オンタリオ州やケベック州）でのと畜処理能力の低下に起因する生産者の増頭意欲の減退を挙げている。また、今後のと畜処理能力については、労働力不足やこれに伴う一部食肉処理場の閉鎖が見込まれることで、大幅な回復は難しい状況としている。

表１　豚飼養頭数の推移

（単位：千頭）

		2020年	21年	22年	23年	前年比（増減率）
繁殖豚		1,250.0	1,263.0	1,256.9	1,246.8	▲0.8%
肥育豚		12,815.0	12,857.0	12,913.1	12,683.2	▲1.8%
	23kg未満	5,302.3	5,304.2	5,325.3	5,195.4	▲2.4%
	23～53kg	2,434.6	2,492.5	2,493.2	2,481.7	▲0.5%
	54～80kg	2,514.8	2,431.6	2,429.5	2,384.5	▲1.9%
	81kg以上	2,563.3	2,628.7	2,665.1	2,621.6	▲1.6%
合計		14,065.0	14,120.0	14,170.0	13,930.0	▲1.7%

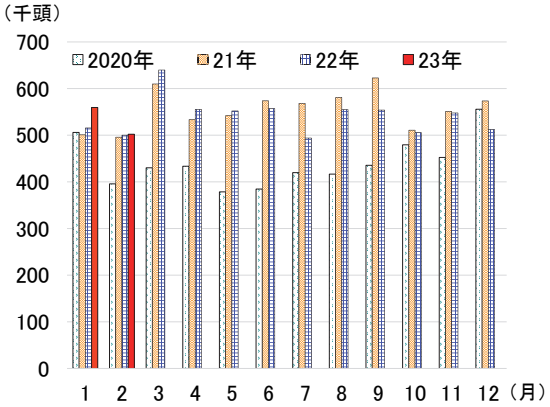
資料：Statistics Canada
注：各年１月１日現在。

23年の豚肉生産量は、と畜頭数が2120万頭（同2.8%減）と減少することにより、200万トン（同4.3%減）と前年をやや下回ると予測されている。

23年１～２月の生体豚輸出量、前年同期比4.5%増

2023年１～２月の生体豚輸出頭数（米国向け）は、カナダ国内のと畜処理能力の低下から輸出に仕向けられたことで、106万頭（前年比4.5%増）とやや増加した（図）。中でも米国の豚肉生産企業への出荷が容易とされるカナダ西部（アルバータ州など）からの輸出が堅調となった。USDAは23年上半期（１～６月）もこの傾向が続くとした上で、同年の生体豚輸出頭数を650万頭（同0.3%増）と見込んでいる。

図　米国向け生体豚輸出頭数の推移



資料：Statistics Canada
注：HSコードは0103。

23年２月の豚肉輸出量、前年同月比12.4%減

カナダ統計局によると、2023年１～２月の豚肉輸出量は16万1900トン（前年同期比11.9%減）とかなり大きく減少した（表２）。輸出先別に見ると、最大の仕向け先である米国向けは、需要が減退する中での米国内の生産量の増加により、５万800トン（同10.2%減）とかなりの程度減少し、日本向けについても、２万5500トン（同18.7%減）と大幅に減少した。一方、中国向けは小売や外食産業での豚肉需要の回復などにより、２万9100トン（同6.0%増）とかなりの程度増加した。23年の豚肉輸出の見通しについてUSDAは、国内生産量の減少により、136万トン（同4.9%減）と前年をやや下回ると予測している。

表２　輸出先別豚肉輸出量の推移

（単位：千トン）

	2022年２月	23年２月	前年同月比（増減率）	シェア	23年（１～２月）	前年同期比（増減率）
米国	29.5	24.8	▲16.1%	30.3%	50.8	▲10.2%
中国	14.4	13.7	▲4.7%	16.8%	29.1	6.0%
日本	14.4	12.4	▲13.7%	15.2%	25.5	▲18.7%
メキシコ	10.3	9.8	▲4.6%	12.0%	21.3	▲8.9%
フィリピン	12.2	6.9	▲43.8%	8.4%	10.2	▲52.8%
韓国	3.3	4.2	25.6%	5.1%	7.1	7.1%
その他	9.2	10.0	8.5%	12.2%	17.9	6.7%
合計	93.3	81.7	▲12.4%	100.0%	161.9	▲11.9%

資料：Statistics Canada
注１：HSコード0203。
注２：製品重量ベース。

（調査情報部　伊藤　瑞基）

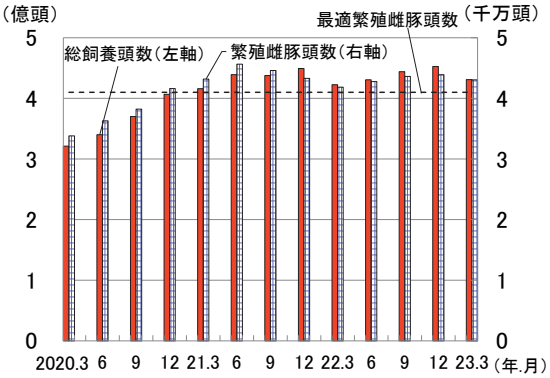
中　国

と畜頭数の増加を受け、豚肉価格は引き続き低水準で推移

総飼養頭数、繁殖雌豚頭数ともに減少に転じる

中国農業農村部によると、2023年３月末時点の豚総飼養頭数は４億3094万頭（前年同月比2.0％増）と前年同月をわずかに上回るも、前期（22年12月末）比4.8％減と減少に転じた（図１）。また、繁殖雌豚頭数も同様に4305万頭（前年同月比2.9％増）とわずかに前年同月を上回るも、前期比1.9％減となった。23年３月末時点の繁殖雌豚頭数は、同部が最適な水準としている4100万頭程度から５％上回っている状況にあるが、減少に転じたことで徐々にこの水準に近づいている。

図１　豚飼養頭数の推移

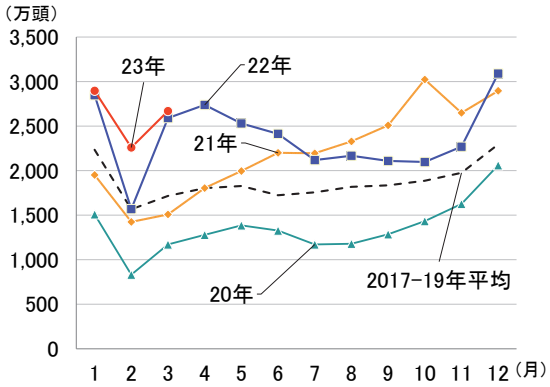


資料：中国国家統計局
注：四半期ごとの公表値。

23年３月の豚と畜頭数は、前年をやや上回る

2023年３月の中国国内の豚と畜頭数は、2669万頭（前年同月比3.0％増）と前年同月をやや上回った（図２）。また、同年１～３月の豚肉生産量は1590万トン（前年同期比1.9％増）とわずかに増加した。飼養頭数が引き続き高水準にある中で、大規模生産者を中心に出荷頭数が多い状況が続いているとされる。

図２　豚と畜頭数の推移

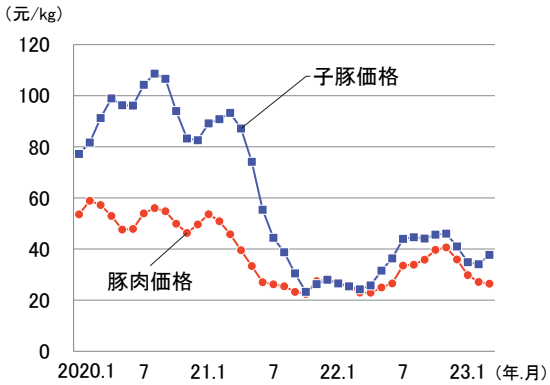


資料：中国農業農村部
注：年間２万頭以上処理すると畜場でのと畜頭数（全体のと畜頭数の約３割）。

豚肉価格は引き続き低水準で推移

豚肉価格は2022年11月から下落に転じており、23年３月の豚肉価格は前月比2.5％安の１キログラム当たり26.4元（519円：１元＝ 19.65円(注)）となった（図３）。前述の通り供給量が増加する中で、春節需要も一段落したことから、価格を支えるほどの需要

図３　豚肉および子豚価格の推移



資料：中国農業農村部

がない状況にあるとみられている。米国農務省（USDA）によると、中国国内でアフリカ豚熱の新たな感染が報道されたことにより、一部の生産者からの突発的な出荷が相次いだことも豚肉生産量の増加および価格の低下を招いた可能性があるとしている。今後の見通しとしてUSDAは、22年末から23年の初めにかけて拡大していたCOVID－19の影響は落ち着き、外食産業や学校、企業の食堂などを中心に業務用需要が回復に向かっているとしている。このため、23年の豚肉需要は回復し、今後さらなる価格の低下が起こる可能性は低いとみている。

今後の豚肉価格に影響を与える子豚価格を見ると、23年２月に上昇に転じ、同年３月は同10.7％高の同37.7元（741円）となった。また、国家発展改革委員会などが実施する国家備蓄による豚肉の買い入れは同年２月24日を最後に実施されていない（23年４月末時点）。

（注）三菱UFJリサーチ＆コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2023年４月末TTS相場。

23年１～３月の豚肉輸入量は前年同期を上回る

2023年１～３月の豚肉輸入量は、52万8093トン（前年同期比28.1％増）と前年を大幅に上回った（表）。この背景として、COVID－19に関連した規制の緩和に伴い、輸入豚肉の検疫も緩和されたことなどにより、輸入量の増加につながったとみられる。しかし、国内豚肉価格が低水準で推移していることから、以前のような世界の豚肉需給に影響を与えるほどの増加にはなっていない。

表　主要輸入先別豚肉輸入量の推移

（単位：万トン）

	2019年	20年	21年	22年	23年（１～３月）	前年同期比（増減率）
スペイン	38.2	93.4	109.8	46.9	13.2	5.6%
ブラジル	22.2	48.1	54.6	41.7	12.2	50.2%
デンマーク	16.4	36.0	35.2	19.4	6.3	37.9%
オランダ	16.0	26.5	27.7	12.3	5.0	93.4%
カナダ	17.2	41.1	23.6	11.4	4.1	55.1%
米国	24.5	69.6	39.8	12.6	4.1	34.2%
その他	64.9	115.8	66.8	30.1	7.9	2.2%
合計	199.4	430.4	357.4	174.4	52.8	28.1%

資料：「Global Trade Atlas」
注：HSコードは0203。

（調査情報部　海老沼　一出）

牛乳・乳製品

ＥＵ

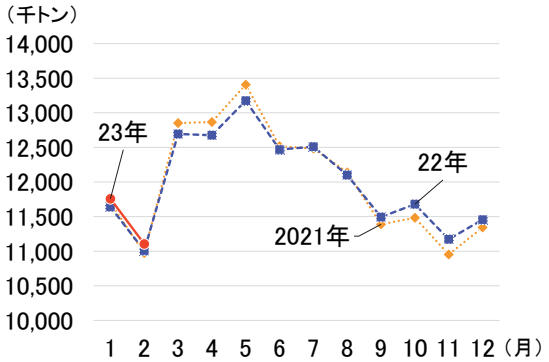
生乳出荷量は増加も、生乳取引価格や乳製品価格はともに下落

23年２月の生乳出荷量は増加も今後は減産を予測

欧州委員会によると、2023年２月の生乳出荷量（EU27カ国）は1110万5160トン（前年同月比0.9％増）となった（図１、表）。主要生産国別に見ると、ドイツ（同2.3％増）、オランダ（同4.0％増）、イタリア（同0.5％増）、デンマーク（同1.0％増）、ベルギー（同5.0％増）が前年同月を上回った一方、フランス（同1.2％減）、スペイン（同1.9％減）は３カ月連続で前年同月を下回った。

欧州委員会が３月30日に公表した農畜産物の短期需給見通しの中で、23年の生乳出荷量については、生産コストの高止まりなどからと畜頭数が増加し、乳用経産牛飼養頭数が前年比1.0％減となるため、同0.2％減と予測している。

図１　生乳出荷量の推移



資料：欧州委員会「Eurostat」
注１：直近月は速報値。
注２：データが未公表のルクセンブルグを除く。

表　主要生産国別生乳出荷量の推移

（単位：千トン）

	2022年２月	23年２月	前年同月比（増減率）	23年（１～２月）	前年同期比（増減率）
ドイツ	2,484	2,541	2.3%	5,313	3.0%
フランス	1,923	1,901	▲ 1.2%	3,950	▲ 1.2%
オランダ	1,068	1,111	4.0%	2,323	4.4%
イタリア	1,029	1,035	0.5%	2,091	▲ 1.6%
ポーランド	1,005	1,016	1.0%	2,112	1.3%
スペイン	585	574	▲ 1.9%	1,196	▲ 1.7%
デンマーク	438	443	1.0%	924	1.0%
アイルランド	378	372	▲ 1.7%	558	▲ 1.6%
ベルギー	346	363	5.0%	757	4.8%
その他	1,752	1,751	▲ 0.1%	3,638	0.1%
合計	11,009	11,105	0.9%	22,863	0.9%

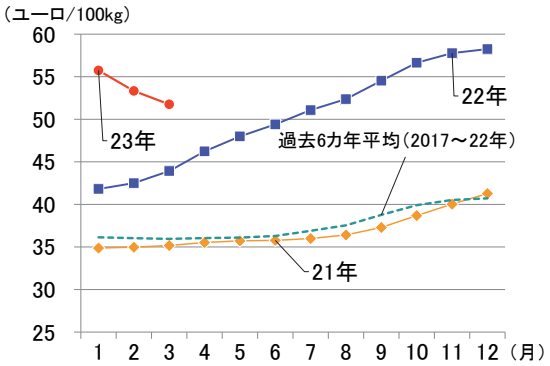
資料：欧州委員会「Eurostat」
注１：速報値。
注２：データが未公表のルクセンブルグを除く。

生乳取引価格、３カ月連続で前月を下回る

欧州委員会によると、2023年３月の生乳取引価格（EU27カ国の平均）は、100キログラム当たり51.76ユーロ（7740円：１ユーロ＝149.54円(注)、前年同月比17.9%高）と前年同月を大幅に上回った（図２）。一方、前月比では2.9%安となり、３カ月連続で前月を下回った。

（注）三菱UFJリサーチ＆コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2023年４月末TTS相場。

図２　生乳取引価格の推移



資料：欧州委員会「Milk market observatory」
注１：直近月は推定値。
注２：データが未公表のルクセンブルグを除く。

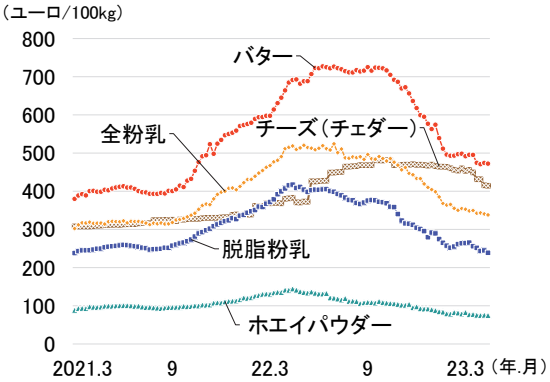
乳製品価格は引き続き下落傾向

欧州委員会によると、直近2023年４月16日の週の乳製品価格（EU27カ国の平均）は、バターが100キログラム当たり472ユーロ（７万583円、前年同期比31.7%安）、脱脂粉乳が同239ユーロ（３万5740円、同42.8%安）と前年同期を大幅に下回った（図３）。

前述の見通しの中でこれら乳製品価格下落の要因として、需要者がより一層の下落を見越して発注を先延ばししていることや、消費者が買い控えを行っていることを挙げている。また、22年末のバターおよび脱脂粉乳の在庫がそれぞれ前年比11.1％増、同85.7%増と積み上がっているため、23年の両品目の生産量を同0.2%減と予測している。

同委員会は、同年の生乳出荷量を同0.2%減と予測しているものの、天候の回復による乳脂肪分と乳たんぱく質含有量の増加を見込んでおり、加工用生乳の供給量は安定し、他の乳製品より付加価値の高いチーズの生産に仕向けられるとしている。

図３　乳製品価格の推移



資料：欧州委員会「Milk market observatory」

（調査情報部　渡辺　淳一）

豪　州

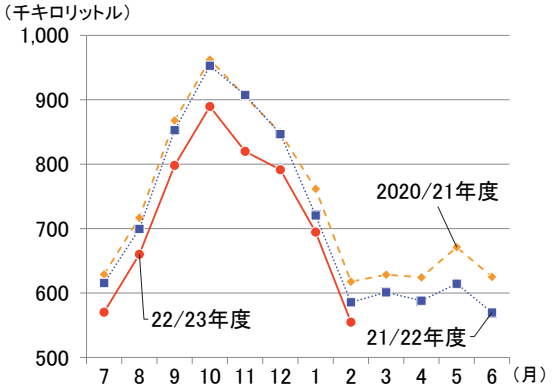
生乳生産量の減少が続く中、次年度乳価への注目が高まる

生乳生産量は引き続き減少

デーリー･オーストラリア（DA）によると、2023年２月の生乳生産量は55万4809キロリットル（57万1453トン相当、前年同月比5.3%減）となり、21年12月以降15カ月連続で前年同月を下回った（図１）。この結果、同月までの年度累計生乳生産量（22年７月～23年２月）は577万8471キロリットル（595万1825トン相当、前年同期比6.5%減）となった。

この要因についてDAは、肉牛価格や地価の高騰、労働力不足などの「pre-existing pressures（既存の圧力）」に加え、生乳生産量のピークを迎える春期（９～11月ごろ）の多雨や洪水による飼料作物や搾乳牛などへの被害を挙げている。これらの影響から、今年度（22年７月～23年６月）の生乳生産量は、800万～820万キロリットル（824万～845万トン相当、前年度比４～６％減）になると見込んでいる(注1)。

図１　生乳生産量の推移



資料：DA
注：年度は７月～翌６月。

（注１）海外情報「2022/23年度の生乳生産量は４～６％減少の見込み（豪州）」（https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01_003487.html）を参照されたい。

次年度乳価への注目が高まる

今年度の生産者支払乳価は、生乳生産量が減少する中での乳量確保に向け、多くの乳業が生乳の固形分(注2)１キログラム当たり９豪ドル（819円：１豪ドル＝90.98円(注3)）以上を提示するなど歴史的な高値となっている(注4)。今後の生乳生産量については、「既存の圧力」の継続が見込まれることなどから、次年度も大幅に増加する見通しは立たない状況にある。一方、最近の乳製品国際価格に目を転じると、中国の乳製品輸入需要の回復が業界予想に比べて遅れをとっていることなどから動きが鈍い状況にあり(注5)、輸出向け商品で収益の確保を見込むことが困難な状況にある。これらの状況から、豪州の農業系金融機関ルーラルバンクによると、６月１日までの公表が義務付けられている次年度の当初乳価(注6)の設定に当たって、乳業各社は難しい判断を迫られているという。

一方、現地報道では、ロシアのウクライナ侵攻を背景とした飼料価格の高騰などから酪農の投入コストが増大しており、生産者からは同10豪ドル（910円）以上(注7)の設定を期待する声が上がっている。

（注２）乳脂肪分および乳たんぱく質。
（注３）三菱UFJリサーチ＆コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2023年４月末TTS相場。
（注４）『畜産の情報』2023年４月号「生乳生産量、30年ぶりの800万キロリットル台割れの懸念」（https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_002669.html）を参照されたい。
（注５）海外情報「乳製品取引価格、主要４品目で上昇も不透明な状況が続く（NZ）」（https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01_003519.html）を参照されたい。

（注６）前年度の６月１日までに「酪農業界における行動規範」に基づき、乳業各社などに公表が義務付けられている次年度の生産者支払乳価。
（注７）本年度の大手乳業などの当初乳価は同８～９豪ドル台が多かった。「2022／23年度の当初乳価は記録的な高値（豪州）」（https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01_003273.html）を参照されたい。

主要乳製品輸出量、３品目で大幅減

DAが発表した2023年２月の主要乳製品４品目の輸出量は、チーズを除く３品目で大幅に減少した（表、図２）。

最も減少率が大きかったバターおよびバターオイルや、次に減少率が大きかった脱脂粉乳が半減したほか、全粉乳でも４割近い減少を記録している。これらの減少要因は、いずれも、中国をはじめとしたアジア向け輸出の不振にあるとみられる。一方、チーズは最大の輸出先である日本向けなどの増加を背景に、小幅ながらも増加した。

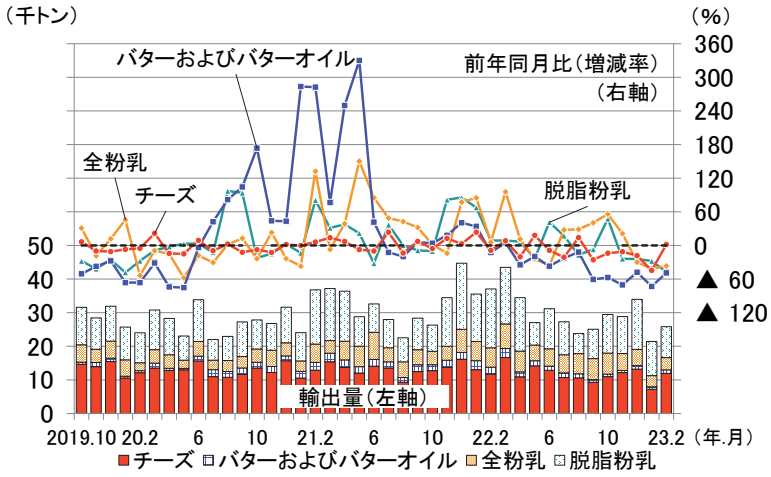
表　乳製品輸出量の推移

（単位：トン）

品目	2022年２月	23年２月	前年同月比（増減率）	22/23年度（７月～翌２月）	前年同期比（増減率）
脱脂粉乳	17,503	9,190	▲ 47.5 %	81,231	▲ 17.5 %
全粉乳	5,769	3,657	▲ 36.6 %	40,732	2.2 %
バターおよびバターオイル	2,026	1,033	▲ 49.0 %	7,608	▲ 52.0 %
チーズ	11,748	11,940	1.6 %	86,071	▲ 16.2 %

資料：DA
注：製品重量ベース。

図２　乳製品輸出量および前年同月比（増減率）の推移



資料：DA
注：製品重量ベース。

（調査情報部　阿南　小有里）

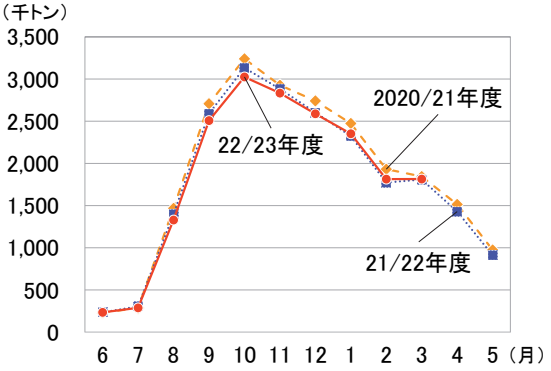
N　Z

22/23年度の集乳量、前年度を下回る見通し

23年３月の生乳生産量、前年同月並み

ニュージーランド乳業協会（DCANZ）によると、2023年３月の生乳生産量は181万4900トン（前年同月比0.3%増）と前年同月並みとなった（図１）。ニュージーランド証券取引所（NZX）によると、22/23年度（６月～翌５月）は、シーズン当初から多雨と低温が続き、一部地域では洪水が発生するなどして生乳生産量の低迷が続いた。しかし、３～４月は同国の大部分で穏やかな天候に恵まれたことで牧草の生育状況が改善し、シーズン後半の生乳生産の好転につながったとしている。今後の予測についてNZXは、冬季に向かうにつれて気象条件が悪化すると予測しており、天候不良が５月下旬の生乳生産に影響を及ぼす可能性を示唆している。

図１　生乳生産量の推移



資料：DCANZ
注：年度は６月～翌５月。

乳製品輸出量、粉乳類は前年割れが続く

ニュージーランド統計局（Stats NZ）によると、2023年３月の乳製品輸出量は、バターおよびバターオイル、チーズが前年同月を上回った一方で、脱脂粉乳および全粉乳は前年同月を下回る結果となった（表１、図２）。

また、輸出先別で見ると、脱脂粉乳および全粉乳は最大の輸出先である中国向けや主要輸出先のインドネシア向けがそれぞれ減少したことで全体でも前年同月を下回った（表２）。NZ乳業大手フォンテラ社のハレル最高経営責任者（CEO）は、中国では全粉乳を中心に国内在庫が積み上がっているため、同国からの需要が想定した水準にまで戻ってきていないと言及している。一方、豪州向けは、同国の生乳生産量が歴史的な低水準で推移し

表１　乳製品輸出量の推移

（単位：トン）

品目	2022年３月	23年３月	前年同月比（増減率）	22/23年度（７月～翌３月）	前年同期比（増減率）
脱脂粉乳	40,256	39,457	▲ 2.0%	334,340	32.7%
全粉乳	131,467	120,779	▲ 8.1%	1,044,686	▲ 5.4%
バターおよびバターオイル	42,876	43,418	1.3%	363,531	25.4%
チーズ	37,604	37,644	0.1%	303,111	19.3%
合計	252,203	241,298	▲ 4.3%	2,045,667	7.7%

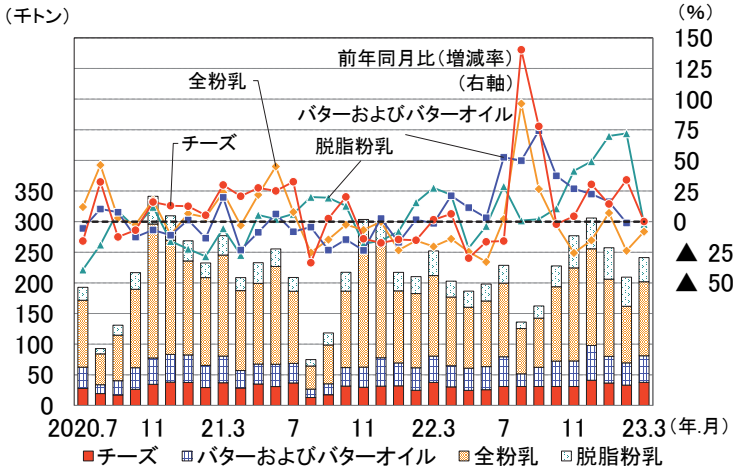
資料：Stats NZ
注１：HSコードは、脱脂粉乳が0402.10、全粉乳が0402.21と0402.29、バターおよびバターオイルが0405.10と0405. 90、チーズが0406。
注２：製品重量ベース。
注３：年度は７月～翌６月。

ていることから、主要４品目すべてで前年同月を大幅に上回る結果となった。

他方、輸出額を見ると、粉乳の輸出が低迷していることや国際相場の停滞を受けて15億8341万NZドル（1377億3481万円：1NZドル＝84.46円[注1]、同5.8％減）と前年同月をやや下回った。こうした流れを受けて同社は４月３日、22/23年度の生産者支払乳価を生乳の固形分[注2]１キログラム当たり平均8.3NZドル（701円）に引き下げると発表した[注3]。

（注１）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場の2023年４月末TTS相場。
（注２）乳脂肪分および乳たんぱく質。
（注３）海外情報「乳製品取引価格、主要４品目で上昇も不透明な状況が続く（NZ）」（https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01_003519.html）を参照されたい。

図２　乳製品輸出量および前年同月比（増減率）の推移



資料：Stats NZ
注：製品重量ベース。

表２　輸出先別乳製品輸出量の推移（2023年３月）

（単位：トン）

品目	脱脂粉乳	前年同月比（増減率）	全粉乳	前年同月比（増減率）	バターおよびバターオイル	前年同月比（増減率）	チーズ	前年同月比（増減率）
中国	10,869	▲ 5.2%	39,207	▲ 31.0%	11,420	▲ 23.2%	10,137	16.6%
インドネシア	6,186	▲ 16.0%	6,661	▲ 33.7%	1,265	▲ 12.4%	1,190	▲ 23.5%
マレーシア	3,397	14.0%	3,641	28.9%	1,202	▲ 14.7%	1,145	▲ 4.1%
豪州	720	134.4%	4,605	51.2%	5,359	138.9%	7,209	319.3%
日本	53	▲ 73.4%	75	▲ 39.7%	684	33.7%	5,758	▲ 33.6%
韓国	7	▲ 87.1%	215	▲ 47.6%	1,185	25.8%	2,459	▲ 4.3%
その他	18,225	1.9%	66,376	14.0%	22,304	3.9%	9,747	▲ 26.1%
合計	39,457	▲ 2.0%	120,779	▲ 8.1%	43,418	1.3%	37,644	0.1%

資料：Stats NZ
注１：HSコードは、脱脂粉乳が0402.10、全粉乳が0402.21と0402.29、バターおよびバターオイルが0405.10と0405. 90、チーズが0406。
注２：製品重量ベース。

（調査情報部　工藤　理帆）

飼料穀物

世　界

アルゼンチンの生産量が５年ぶりに4000万トンを下回る見込み

米国農務省世界農業観測ボード（USDA/WAOB）および米国農務省海外農業局（USDA/FAS）は2023年４月11日、22/23年度の世界のトウモロコシ需給予測値を更新した（表）。

これによると、世界のトウモロコシ生産量は11億4450万トン（前年度比6.0%減）と前月から302万トン下方修正され、前年度をかなりの程度下回ると見込まれている。地域別に見ると、アルゼンチンやEUなどで前月から下方修正された。アルゼンチンでは猛暑と干ばつが続き、３月下旬に局地的な降雨があったものの、作付面積全体の３分の２を占める遅播（ま）きトウモロコシの単収減により、前月から300万トン下方修正されて3700万トン（同25.3%減）と前年度から大幅に減少すると見込まれている。また、EUではドイツとポーランドの生産量が上方修正されたものの、ハンガリー、イタリアおよびブルガリアの生産量の下方修正がそれを上回った。

輸入量は、世界全体で１億7397万トン（同5.8%減）と前月から51万トン下方修正され、前年度からやや減少すると予測されている。地域別に見ると、減産見込みを受けてEUやウルグアイなどで前月から上方修正されたものの、飼料用需要の減少が予測されるエジプトや、メキシコからの輸入量の減少が見込まれるベネズエラで前月から下方修正された。

消費量は、世界全体で11億5606万トン（同3.9%減）と前月から69万トン下方修正され、前年度からやや減少すると見込まれている。地域別に見ると、最大の消費国である中国は前月から据え置かれ、米国などで下方修正された。

輸出量は、世界全体で１億7379万トン（同15.5%減）と前月から92万トン下方修正され、前年度からかなり大きく減少し、20/21年度の水準も下回ると予測されている。地域別に見ると、増産が見込まれるロシアや、黒海穀物イニシアティブ(注)の延長を受けて引き続き黒海経由の安全な輸出が可能となったウクライナの輸出量が前月から上方修正された。一方で、減産が見込まれるアルゼンチンやセルビアなどの輸出量が減少した。

この結果、期末在庫は２億9535万トン（同3.8%減）と前月から111万トン下方修正され、引き続き３億トンを下回ると見込まれている。

（注）ウクライナとロシアが国連とトルコの仲介の下で署名した穀物と肥料の安全な輸出航路の確保に関する協定であり、22年７月から実施され、今回で２度目の延長となる。海外情報「ウクライナ産穀物の動向～黒海穀物イニシアティブの延長～（ウクライナ）」（https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01_003485.html）を参照されたい。

表　主要国のトウモロコシの需給見通し（2023年４月11日米国農務省公表）

（単位：百万トン）

区　　分		2020/21年度	21/22年度（推計値）	22/23年度（３月予測）	22/23年度（４月予測）	22/23年度 前年度比（増減量）	22/23年度 前年度比（増減率）
米国							
	期首在庫	48.76	31.36	34.98	34.98	3.62	11.5%
	生産量	358.45	382.89	348.75	348.75	▲ 34.14	▲ 8.9%
	輸入量	0.62	0.62	1.27	1.02	0.40	1.6倍
	消費量	306.69	317.12	303.93	303.67	▲ 13.45	▲ 4.2%
	輸出量	69.78	62.78	46.99	46.99	▲ 15.79	▲ 25.2%
	期末在庫	31.36	34.98	34.08	34.08	▲ 0.90	▲ 2.6%
アルゼンチン							
	期首在庫	3.62	1.18	1.49	1.49	0.31	26.3%
	生産量	52.00	49.50	40.00	37.00	▲ 12.50	▲ 25.3%
	輸入量	0.01	0.01	0.01	0.01	0.00	0.0%
	消費量	13.50	14.80	12.00	12.00	▲ 2.80	▲ 18.9%
	輸出量	40.94	34.40	28.00	25.00	▲ 9.40	▲ 27.3%
	期末在庫	1.18	1.49	1.49	1.49	0.00	0.0%
ブラジル							
	期首在庫	5.33	4.15	3.75	3.97	▲ 0.18	▲ 4.3%
	生産量	87.00	116.00	125.00	125.00	9.00	7.8%
	輸入量	2.85	2.60	1.30	1.30	▲ 1.30	▲ 50.0%
	消費量	70.00	70.50	73.00	73.00	2.50	3.5%
	輸出量	21.02	48.28	50.00	50.00	1.72	3.6%
	期末在庫	4.15	3.97	7.05	7.27	3.30	83.1%
ウクライナ							
	期首在庫	1.48	0.83	5.09	6.09	5.26	7.3倍
	生産量	30.30	42.13	27.00	27.00	▲ 15.13	▲ 35.9%
	輸入量	0.02	0.02	0.00	0.00	▲ 0.02	－
	消費量	7.10	9.90	6.20	6.20	▲ 3.70	▲ 37.4%
	輸出量	23.86	26.98	23.50	25.50	▲ 1.48	▲ 5.5%
	期末在庫	0.83	6.09	2.39	1.39	▲ 4.70	▲ 77.2%
EU							
	期首在庫	7.38	7.88	9.94	9.93	2.05	26.0%
	生産量	67.44	71.37	54.20	52.97	▲ 18.40	▲ 25.8%
	輸入量	14.49	19.78	23.50	24.50	4.72	23.9%
	消費量	77.70	83.10	78.10	78.10	▲ 5.00	▲ 6.0%
	輸出量	3.74	6.00	2.20	2.20	▲ 3.80	▲ 63.3%
	期末在庫	7.88	9.93	7.34	7.10	▲ 2.83	▲ 28.5%
中国							
	期首在庫	200.53	205.70	209.14	209.14	3.44	1.7%
	生産量	260.67	272.55	277.20	277.20	4.65	1.7%
	輸入量	29.51	21.88	18.00	18.00	▲ 3.88	▲ 17.7%
	消費量	285.00	291.00	297.00	297.00	6.00	2.1%
	輸出量	0.00	0.00	0.02	0.02	0.02	－
	期末在庫	205.70	209.14	207.32	207.32	▲ 1.82	▲ 0.9%
世界計							
	期首在庫	307.42	292.83	305.69	306.91	14.08	4.8%
	生産量	1,129.42	1,217.00	1,147.52	1,144.50	▲ 72.50	▲ 6.0%
	輸入量	184.86	184.59	174.48	173.97	▲ 10.62	▲ 5.8%
	消費量	1,144.01	1,202.92	1,156.75	1,156.06	▲ 46.86	▲ 3.9%
	輸出量	182.70	205.67	174.71	173.79	▲ 31.88	▲ 15.5%
	期末在庫	292.83	306.91	296.46	295.35	▲ 11.56	▲ 3.8%

資料：USDA/WAOB「World Agricultural Supply and Demand Estimates」
注：各国の穀物年度　世界、米国：９月～翌８月／ウクライナ、EU、中国：10月～翌９月／アルゼンチン、ブラジル：３月～翌２月。

（調査情報部　針ヶ谷　敦子）

アルゼンチンは下方修正続くも、ブラジルの増産などで大豆期末在庫は微増

米国農務省世界農業観測ボード（USDA/WAOB）および米国農務省海外農業局（USDA/FAS）は2023年４月11日、22/23年度の世界の大豆需給予測値を更新した（表）。

これによると、世界の生産量は３億6964万トン（前年度比2.7%増）と前月から551万トン下方修正された。このうち、最大の生産国であるブラジルは作付面積増加などを背景に前月から100万トン上方修正され、これに次ぐ米国は前月から据え置かれた。一方で、主要生産国のアルゼンチンは干ばつの影響などから４カ月連続で下方修正され、22年10月時の予測値（5100万トン）から2400万トン減少している。

輸入量は、世界全体で１億6476万トン（同5.2%増）と前月から63万トン下方修正された。このうち、最大の輸入国である中国は前月から据え置かれ、アルゼンチンは国内生産量の減少から２カ月連続で上方修正された。一方で、搾油需要の減少からバングラデシュ、エジプト、パキスタンが下方修正された。

消費量（搾油仕向け）は、世界全体で３億1520万トン（同0.4%増）と前月から484万トン下方修正された。このうち、最大の消費国である中国は国内での需要減少が見込まれることで100万トン下方修正され、４カ月連続での減少となった。また、アルゼンチンは前月から325万トン、前述のバングラデシュ、エジプト、パキスタンもそれぞれ下方修正された。

輸出量は、世界全体で１億6800万トン（同9.1%増）と前月から40万トン下方修正された。このうち、最大の輸出国であるブラジル、これに次ぐ米国は前月から据え置かれた。

この結果、期末在庫は１億29万トン（同0.6%増）と前月から28万トン上方修正されたが、中国での在庫積み増しなどを受け、引き続き１億トン台を維持している。

表　主要国の大豆需給見通し（2023年４月11日 米国農務省公表）

（単位：百万トン）

国　　名		2020/21年度	21/22年度（推計値）	22/23年度（３月予測）	22/23年度（４月予測）	22/23年度 前年度比（増減率）
米国						
	期首在庫	14.28	6.99	7.47	7.47	6.9%
	生産量	114.75	121.53	116.38	116.38	▲ 4.2%
	輸入量	0.54	0.43	0.41	0.41	▲ 4.7%
	消費量	58.26	59.98	60.42	60.42	0.7%
	輸出量	61.67	58.72	54.84	54.84	▲ 6.6%
	期末在庫	6.99	7.47	5.72	5.72	▲ 23.4%
ブラジル						
	期首在庫	20.42	29.58	26.89	27.60	▲ 6.7%
	生産量	139.50	130.50	153.00	154.00	18.0%
	輸入量	1.02	0.54	0.75	0.75	38.9%
	消費量	46.50	50.71	52.75	53.25	5.0%
	輸出量	81.65	79.06	92.70	92.70	17.3%
	期末在庫	29.58	27.60	31.54	32.75	18.7%
アルゼンチン						
	期首在庫	26.65	25.06	23.90	23.90	▲ 4.6%
	生産量	46.20	43.90	33.00	27.00	▲ 38.5%
	輸入量	4.82	3.84	7.25	8.30	116.1%
	消費量	40.16	38.83	35.25	32.00	▲ 17.6%
	輸出量	5.20	2.86	3.40	3.40	18.9%
	期末在庫	25.06	23.90	19.80	18.10	▲ 24.3%
中国						
	期首在庫	24.61	31.15	31.40	31.40	0.8%
	生産量	19.60	16.40	20.28	20.28	23.7%
	輸入量	99.74	91.57	96.00	96.00	4.8%
	消費量	93.00	87.50	92.00	91.00	4.0%
	輸出量	0.07	0.10	0.10	0.10	0.0%
	期末在庫	31.15	31.40	34.28	35.28	12.4%
世界計						
	期首在庫	95.10	100.35	99.00	99.73	▲ 0.6%
	生産量	368.60	359.80	375.15	369.64	2.7%
	輸入量	165.49	156.59	165.39	164.76	5.2%
	消費量	315.82	313.81	320.04	315.20	0.4%
	輸出量	164.86	154.02	168.40	168.00	9.1%
	期末在庫	100.35	99.73	100.01	100.29	0.6%

資料：USDA/WAOB「World Agricultural Supply and Demand Estimates」
注１：各国の穀物年度　米国：９月～翌８月／ブラジル、アルゼンチン、中国：10月～翌９月。
注２：消費量は搾油仕向量である。

（調査情報部　横田　徹）

米　国

米国の輸出量は前年度比25.1％減と前月から据え置き

USDA/WAOBは2023年４月11日、22/23年度（９月～翌８月）の米国のトウモロコシ需給見通しを更新した（表）。

生産量は、137億3000万ブッシェル（３億4876万トン[注1]、前年度比8.9％減）と前月から据え置かれ、前年度からかなりの程度減少すると見込まれている。

消費量は、119億5500万ブッシェル（３億367万トン、同4.2％減）と、でん粉用途向けなどを含む食品・種子・その他工業向けが前月から1000万ブッシェル（25万トン）下方修正され、前年度からやや減少すると見込まれている。

輸出量は、18億5000万ブッシェル（4699万トン、同25.1％減）と前月から据え置かれ、前年度から大幅に減少すると見込まれている。

期末在庫は、消費量の減少に加えて輸入量も1000万ブッシェル減少したため、13億4200万ブッシェル（3408万トン、同2.5％減）と前月から据え置かれ、前年度をわずかに下回ると見込まれている。

また、期末在庫率（総消費量に対する期末在庫量）も前月から据え置かれ、9.7％（同0.5ポイント増）と、引き続き前年度をわずかに上回ると予測されている。

生産者平均販売価格は、１ブッシェル当たり6.60米ドル（892円。１キログラム当たり35.1円：１米ドル＝135.13円[注2]）とこちらも前月から据え置かれ、前年度からかな

表　米国のトウモロコシの需給見通し（2023年４月11日米国農務省公表）

区　分	ー単位ー	2020/21年度	21/22年度（推計値）	22/23年度			
				（３月予測）	（４月予測）	参考（換算値）	前年度比（増減率）
作付面積	（百万エーカー）	90.7	93.3	88.6	88.6	35.9（百万ヘクタール）	▲5.0%
収穫面積	（百万エーカー）	82.3	85.3	79.2	79.2	32.1（百万ヘクタール）	▲7.2%
単収	（ブッシェル/エーカー）	171.4	176.7	173.3	173.3	10.9（トン/ヘクタール）	▲1.9%
期首在庫	（百万ブッシェル）	1,919	1,235	1,377	1,377	34.98（百万トン）	11.5%
生産量	（百万ブッシェル）	14,111	15,074	13,730	13,730	348.76（百万トン）	▲8.9%
輸入量	（百万ブッシェル）	24	24	50	40	1.02（百万トン）	1.7倍
総供給量	（百万ブッシェル）	16,055	16,333	15,157	15,147	384.75（百万トン）	▲7.3%
国内消費量	（百万ブッシェル）	12,074	12,484	11,965	11,955	303.67（百万トン）	▲4.2%
飼料など向け	（百万ブッシェル）	5,607	5,721	5,275	5,275	133.99（百万トン）	▲7.8%
食品・種子・その他工業向け	（百万ブッシェル）	6,467	6,764	6,690	6,680	169.68（百万トン）	▲1.2%
うちエタノール向け	（百万ブッシェル）	5,028	5,326	5,250	5,250	133.36（百万トン）	▲1.4%
輸出量	（百万ブッシェル）	2,747	2,471	1,850	1,850	46.99（百万トン）	▲25.1%
総消費量	（百万ブッシェル）	14,821	14,956	13,815	13,805	350.66（百万トン）	▲7.7%
期末在庫	（百万ブッシェル）	1,235	1,377	1,342	1,342	34.08（百万トン）	▲2.5%
期末在庫率	（%）	8.3	9.2	9.7	9.7		0.5ポイント増
生産者平均販売価格	（米ドル/ブッシェル）	4.53	6.00	6.60	6.60	35.1（円/kg）	10.0%

資料：USDA/WAOB「World Agricultural Supply and Demand Estimates」
注１：年度は９月～翌８月。
注２：１ブッシェルは約25.401キログラム、１エーカーは約0.4047ヘクタール。

りの程度上昇し、引き続き高値が予測されている。

米国農務省全国農業統計局（USDA/NASS）が３月31日に公表した穀物の作付け予想によると、来期（23年）のトウモロコシの作付面積は9200万エーカー（3723万ヘクタール、前年比3.9％増）と前年からやや増加すると見込まれている。アイオワ州やイリノイ州といった主産地では20万エーカー（８万ヘクタール）ほど増加するほか、48州中40州で増加または据え置きが予想されている。

（注１）１ブッシェルを約25.401キログラム、１エーカーを0.4047ヘクタールとして農畜産業振興機構が換算。
（注２）三菱UFJリサーチ＆コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2023年４月末TTS相場。

（調査情報部　針ヶ谷　敦子）

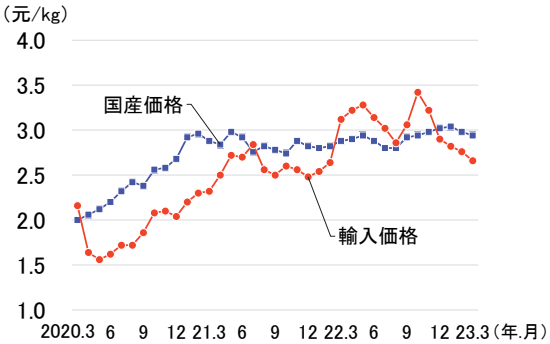
中　国

トウモロコシおよび大豆の価格動向

国産トウモロコシ価格、需要の低下から弱含みでの推移と予想

中国農業農村部は４月27日、「農産物需給動向分析月報（2023年３月）」を公表した。この中で、2023年３月の国産トウモロコシ価格は、前月からわずかな下落となった（図１）。同月の国内のトウモロコシ需給を見ると、供給面では、気温の上昇に伴い産地でのトウモロコシ貯蔵が難しくなり、生産者の販売意欲がより高まったとされている。需要面では、この動きに合わせてコーンスターチ製造各社などが前年より早めにトウモロコシの入手を行ってきたことで川下の需要は低下傾向にあり、トウモロコシ加工業者もすでに一定量の在庫を確保したとされている。このため、国産トウモロコシ価格は、短期的には弱含みでの推移が見込まれている。

図１　トウモロコシ価格の推移



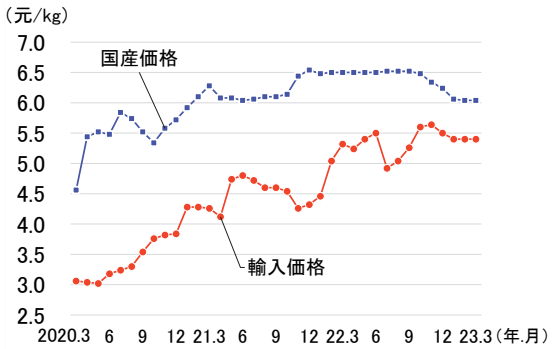
資料：中国農業農村部のデータを基にALIC作成
注１：国産価格は、中国東北部から広東省黄埔港までの運賃込み２級黄トウモロコシ価格。
注２：輸入価格は、米国メキシコ湾積出し２級黄トウモロコシの広東省黄埔港引渡し価格（関税割当数量内：課税後）。

各地の価格動向を見ると、主要養豚生産地である中国南部向け飼料原料集積地となる広東省黄埔港到着の輸入トウモロコシ価格（関税割当数量内：１％の関税＋25％の追加関税）は、23年３月が１キログラム当たり2.66元（52円：１元＝19.65円(注)）となった。22年３月以来、国産価格を上回って推移していた輸入トウモロコシ価格は５カ月連続で下落し、国産価格を下回って推移している。また、国産と輸入との価格差は、同月の国産トウモロコシ価格（東北部産の同港到着価格）が同2.94元（58円）となったことから同0.28元（６円）に拡大した。

国産大豆価格、需給調整などにより安定した推移と予想

2023年３月の国産大豆価格は、前月並みの水準となった（図２）。同月の国内の大豆

図２　大豆価格の推移



資料：中国農業農村部のデータを基にALIC作成
注１：国産価格は、山東省入荷価格。
注２：輸入価格は、山東省青島港引渡し価格（課税後）。

需給を見ると、供給面では、トウモロコシと同じく気温の上昇に伴い産地での貯蔵が難しくなったことで、生産者の販売意欲がより高まっているとされている。一方、需要面では、生体豚価格の下落などによる飼料（大豆かす）需要の低下など川下の動きが比較的弱く、市場での取引数量に大きな動きが見られないとされている。このような中で、中国政府は前年度に続き大豆の増産政策を掲げていることで、価格や需給バランスの安定を図るための関係部門による備蓄大豆の放出の停止や、今年の大豆生産を安定させるための補助政策などが打ち出されている。このため、国内の大豆価格は、短期的には安定した推移が見込まれている。

各地の価格動向を見ると、主産地である黒竜江省の食用向け国産大豆平均取引価格は、23年２月が１キログラム当たり5.44元（107円、前年同月比11.3%高）と前月並みの水準が続いている。また、大豆の国内指標価格の一つとなる山東省の国産大豆価格は、同6.04元（119円、同7.1%高）と同じく前月並みとなった。この結果、国産大豆と輸入大豆との価格差は、１キログラム当たり0.64元（13円）と前月並みとなった。

国際相場に影響する大豆の輸入量については、前年に比べて高い水準での開始となった。23年（１～２月）の輸入量は1617万トン（前年同期比16.0%増）、輸入額は世界的な穀物相場高の影響から同29.7%増の108億2600万米ドル（１兆4629億円：１米ドル＝135.13円(注)）と報告されている。主な輸入先は米国（総輸入量の71.6%）、ブラジル（同13.9%）、アルゼンチン（同8.4%）であった。

（注）三菱UFJリサーチ＆コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2023年４月末TTS相場。

（調査情報部　横田　徹）